

研究課題 アイヌ民族教育

共感的・実感的理解を深める 「アイヌ民族の歴史や文化」等に関する実践的研究

札幌市立富丘小学校 代表者 遠藤 哲

研究の目指しているもの

学校教育全体の中で
異文化・人間尊重の
理念の理解を

1 研究のねらい

札幌市教育推進計画の目標の中に、「自他ともに尊重し、ともに支え合う、思いやりのある心をはぐくむ」とある。それは、様々な人々との交流を通して、一人一人が互いにかげがえのない人間として尊重し合い、偏見や差別をなくし、支え合い励まし合う温かい人間関係の中で、心豊かにたくましく生きることを願っているものといえる。

アイヌの人たちの共生という価値観から、
自らの生活を見つめ
直す目を

アイヌ民族の歴史や文化等に関しても、人間尊重の精神や人権問題についての正しい理解の基で、絶対に差別をしたり偏見をもったりしない態度を養うよう指導する必要がある。

アイヌの人たちの生活様式には、「自然と共生しながら生活する」という現代社会にも必要な価値観が根底にある。「自然を尊び自然とともに生きる」という基本理念のもと、北海道の自然や風土とともに生きることから生まれ受け継がれてきた自然観や価値観などは、現代社会にとって自然と人間の在り方について貴重な示唆を与えるものである。異なる文化を受け入れ、尊重する態度とともに、「自然との共生」という価値観から自らの生活を見つめ直す目を育てたいと考える。

具体的な活動や体験
を通して、共感的・
実感的理解へ

北海道に古くから住んでいるアイヌ民族の歴史や文化等に関する学習にあたっては、正しい知識の獲得に加え、共感的・実感的理解を深めていくことが大切である。体験可能な教材をもとに、子どもたちに「見る・触れる・試す」など価値ある活動をさせたり、具体物を数多く提示したりしていくことを重視し、興味・関心を喚起しながら、深い理解につなげていく。また、ゲストティーチャーとして、札幌市ウタリ教育相談員との連携を積極的に図り、今回の研究実践に取り組んでいきたいと考える。

2 研究の内容

四つの観点から、指
導内容を吟味・構成
した実践を通して

アイヌ民族の歴史や文化等を、子どもたちにとって価値ある具体的な活動や体験を通して、共感的・実感的理解を深める学習の在り方

自然の一部として生
きるアイヌの人たち
の知恵に学びながら

遊び・食・地名を糸口に、子どもの生活経験を中心にすえた学習活動の工夫
アイヌ民族における自然観 = 自然との共生 = に関する指導の充実

アイヌ民族の歴史や文化等に対する、共感的・実感的理解の充実

アイヌ民族の知恵に学び、自らの生活を見つめ直す目を育てる指導の充実

以上の四つの観点から、小学校社会二実践と中学校社会一実践を吟味・構成し、共感的・実感的理解を深める学習の在り方と小・中の関連性を検証していく。

研究の内容

実践 1

「投げ輪突きや魚突きの遊びから、『自然を利用するアイヌの人たち』へ」

小学校 4年 社会

実践者 吉田 明（札幌市立富丘小学校）

「子どもの昔の遊び」から、自然を利用し学ぶアイヌの人たちへ

1 実践のねらい

本時は、アイヌの「子どもの昔の遊び」について、実際の道具を使用しながら体験する学習活動を構成した。前時で学んだ「アイヌの人たちの暮らし」が子どもたちから自然とつながっていることや、大人になって自然と共生していく素地を培っていくことを実感させるために適切であると考えたからである。

そこで、アイヌの子どもの昔の遊びの中から、「投げ輪突き」と「魚突き」の2種類を選んで教材化を図った。それは、子どもたちにとって遊びが身近な対象であるとともに、体験することにより興味・関心を高め、個性的な追求活動も期待できるからである。また、子どもたちはこの遊びの体験から、大人になってからの狩猟・漁労生活への鍛錬になっていることに気付くことができるからである。

この活動を通して、子どもたちは「自分たちの遊び」との違いから、昔の遊びのもつ意味とその必要性をより強く考えていくのである。そして、その楽しさと難しさを実感することで、昔のアイヌの人たちの暮らしの様子をより鮮明にとらえ、「遊びと生活の一体化」を浮き彫りにすることができると思った。

2 学習の流れ

この単元は、「投げ輪突きや魚突きなど、アイヌの子どもの昔の遊び」と「マレクを使ったサケの捕獲の様子」を中核として構成した。

ここでは、具体的な活動を積極的に取り入れ、共感的・実感的理解ができるよう配慮した。札幌市の地図上にアイヌ語の地名を貼ったり、川や山の絵にイラストを貼ったりして、イメージ豊かに取り組めるように工夫した。そのことを通して、子どもたちは自然を利用するアイヌの人たちに気付いていった。次に、子どもの昔の遊びを体験し、狩猟・漁労へとつながっていることへ焦点化していくことで、自然の中で生きるために体を鍛えたり集中力を高めたり、また、それが将来的に生活の技術習得につながっていたりしていることに気付いていった。さらに、アイヌの子どもの昔の遊びについて語るVTRを視聴することによって、確か深い理解を図ることができた。

そのことが次に、アイヌの人たちがサケを突き刺すのに使用した道具、すなわちマレクでのサケの捕獲の様子を通して、必要な分しか捕獲しない、といった自然を大切にしているアイヌの人たちに対する共感的・実感的理解につながっていった。

子どもの昔の遊びの体験の焦点化を図り、共感的・実感的理解へ

【自然の様子を地名に】

アイヌ語から生まれた地名
・アイヌ語起源の地名の色ぬり
 サッ・ポロ・ペッ
 ハシ・ペッ
 コッ・ネ・イ
 テイネ・ニタッ
・自然の様子を地名に、川の近くで生活していた昔の札幌

【自然の物を利用して】

アイヌの人たちの暮らし
・川や山の絵にイラスト貼り
・暮らし方
 服は自分で作って
 動物や魚・木の実を
 萱・笹の家に住んで
・写真や実物資料で、昔の暮らしのイメージの具体化

【自然の中で遊びから学びへ】

アイヌの子どもの昔の遊び
（本時 3 / 6）
・遊びの体験
 投げ輪突き
 魚突き
・遊びの意味や必要性の理解
 狩りや漁の仕方の学習
・VTRでの検証
 （GTによる語りの挿入）

3 本時の目標

アイヌの子どもの昔の遊びの体験を通して、アイヌの人たちは子どものころから自然の物を利用して、狩りや漁の仕方を学んでいたことに気付くことができる。

4 本時の展開 (/ 6)

子どもの活動・思考の流れ	成果と課題
<p>・子どもは、自然の中で遊んでいたから…。 この道具なら、きっと、こうやって遊んでいたんじゃないかな。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">輪をくるくる回すのかな</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">棒はやりのように投げたら</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">何かをさしているみたい</div> </div> <p>「カリブで遊んでいる子ども」の写真の提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; width: fit-content;">なぜ、アイヌの子どもたちは、「カリブ」や「チェブ」などで遊んでいたのだろうか？</div> <p>・遊び方を覚えて実際にやろう。 早くやってみたいなあ。</p> <p>学級を4グループに分け、 二人一組で交替して活動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しい遊びだなあ。 ・集中しないとできない。 ・鳥や鹿や魚をねらっている。 ・自然の物を使った遊びだ。 ・遊びの段階に難しさがある。 ・遊びを将来に役立てている。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>< 投げ輪突き と 魚突き > 動いてくるものを突く だんだん小さく速くして</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>アイヌの人たちの暮らし方に関係あり？</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>投げ輪突きの輪は鳥で、棒はやりのような。まるで、鳥をねらって刺しているようだ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>引きずって動く魚を追いかけて、やりで刺しているようだ。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 30%;"> <p>狩りの訓練のため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中力を高める ・技術を身に付ける </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 30%;"> <p>自然の中で生きていくため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物をとる ・自然の物で楽しむ・鍛える </div> </div> <p>VTRを視聴する。 大人になっても困らないように、動物や魚をとる練習をしていたんだ。 自分の考えをノートにまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; width: fit-content;">アイヌの人たちは、子どものころから自然の中で自然を利用して、狩りや漁のしかたを学んでいたんだ。</div> <p>・食べるもの、特にサケはどうやってとっていたのだろうか。</p>	<p>遊びの名前や遊び方などは教えず、道具だけを提示すると効果的である。どのように遊ぶのか写真を提示し、突き刺す意識をもった問題のとらえ方をさせたい。遊びの追体験として価値付け方向付けることが大切である。安全な使い方の指導も含めて、広い体育館や視聴覚室などで活動することが望ましい。</p> <p>30分くらい活動に浸らせることが体験での気付きに欠かせない。活動の繰り返しにより、大から小へ、正面から横へ、速さの変化など、質的な変化につなげることが有効である。</p> <p>こんな遊び（突き刺す）をしたわけは？という追求意欲があつてこそ、アイヌの人たちの暮らしを探る方向に導くことができる。</p> <p>遊びの和名を紹介しながら、アイヌの人たちの狩猟・漁猟生活とかかわらせ、遊びのもつ価値を問いかけるようなかわりが必要である。</p> <p>投げ輪突きの活動だけでも、目標に迫ることが可能である。</p> <p>遊びと生活の一体化を実感することで、アイヌの人たちの知恵や工夫に気付くことができる。</p>

実践 2

「マレクを使ったサケの捕獲の様子から、『自然を大切にすアイヌの人たち』へ」

小学校 4年 社会

実践者 上田 繁成（札幌市立平岡公園小学校）

「マレクを使ったサケの捕獲の様子」から、自然を大切にすアイヌの人たちへ

1 実践のねらい

遊びを体験することにより、大人になってからの狩猟・漁労生活への鍛錬になっていることに気付いた子どもたちに、本時では、アイヌの人たちがサケを突き刺すのに使用した道具「マレク」でのサケの捕獲の様子を提示する。そこから、「必要な分しかとらない」といった自然を大切にすアイヌの人たちの心に触れていく。この活動が「遊び」と「マレクによる漁労」を結びつけると同時に、「自然を大切にす姿」を浮き彫りにできるからである。

その後、札幌市ウタリ教育相談員との交流を通して、アイヌの人たちの暮らしや文化（遊び・衣食住）のすべてが、自然の恵みに感謝し自然の物を大切にしていることをとらえる中で、「自然を利用すアイヌ」から「自然を大切にすアイヌ」へ、さらに「自然と共生すアイヌ」へと見方・考え方を高めていくことができると考えた。

このように教材化を図ることにより、子どもたちはアイヌの人たちの生き方に触れながら、自らの生活の見直しを図っていくことができると考えた。

2 学習の流れ

サケの捕獲の様子を窓口に、マレクを提示した。サケは生活上たくさん必要なのに、マレクを使ってサケを突いてみると、一匹ずつしかとれない。それなのにこの方法で捕獲したという事実から、そのわけを追求しはじめた。

「アイヌの人たちの暮らし」の学習で、自然にはカムイが宿るという考えを学んだ子どもたちは、サケをカムイととらえ、食べる分だけをとったり、自然のことを考えたりしていたという考えで追求していく。アイヌの人たちは今年だけでなく将来のことまで考えて自然を大切にし、必要な分だけとって生活していたことに気付きながら、その考え方に共感していった。

そして、魚を引き上げると、もり先が回転し鉤となり、魚を確実に引き上げる工夫へと実感的に理解していった。さらに、アイヌの人たちのサケ漁について語るVTRを視聴することによって、確かで深い理解を図ることができた。

次時では、ゲストティーチャーとして招いた札幌市ウタリ教育相談員との交流を通して、アイヌの人たちの暮らしや文化のすべてに対して、アイヌの人たち自身が自然の一部と考えていることに気付き、自然と共生すアイヌの人たちへの共感的・実感的理解を深めていった。また、「自然を大切にすこと」にかかわり、子どもたちは自分の生活を見直し始めた。

一匹しかとれないマレクから問題意識へ、先に取り付けてある鉤から共感的・実感的理解へ

【サケ捕獲の様子から自然の大切さへ】

マレクを使ったサケの捕獲の様子
(本時 4 / 6)

- ・マレクでの捕獲の様子
必要な分しかとらない
自然のことを考えて
もりとがぎに知恵や工夫
- ・将来のことまで考えて、自然を大切にすアイヌの人たち

【自然とともに生きる精神が貫かれているアイヌの人たちへ】



札幌市ウタリ教育相談員との交流を通して、「自然との共生」への実感的・共感的理解

- ・ゲストティーチャーの話聞き、交流
アイヌ語遊び
サケ皮の靴・アツシ織り・チセなどの話
トンコリの演奏とコロポックルの朗読
- ・みんなで一緒に「歌と踊り」(ねずみのおどり)の活動
- ・自然の一部として、自然とともに生活していたアイヌの人たち

3 本時の目標

マレクによるサケの捕獲方法から、とりすぎないように必要な分だけ捕って、アイヌの人たちは自然を大切に生活をしてきたことに気付くことができる。

4 本時の展開 (/ 6)

子どもの活動・思考の流れ	成果と課題
<p>・昔、どうやってサケをとっていたのだろうか。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">網で</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">船で</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">つりで</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">刺して</div> </div> <p>・冬を越すためには、たくさんのサケが必要だろう。 たくさん必要だが、きっと、神という気持ちも強いはずだ。</p> <p>・マレクという道具を使っていたんだ。 これでは、一匹ずつしかとれないよ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> たくさん必要なのに、マレクでサケを一本ずつとったのは、どうしてだろう。 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 食べる分しかとらないで <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんとらなくても ・大事に、何回も ・秋のうちから、冬に備えて ・サケばかりじゃないし </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 自然のことを考えて <ul style="list-style-type: none"> ・絶対むだにしないで ・傷つけないように ・正確に、確実に ・メスや小さいサケも考えて </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px 0; text-align: center;"> カムイに感謝し、将来のことまで考えて、必要な分しか！ </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 20px;"> <div style="width: 30%;">  <p>マレクの鉤に着目 もりであり、かぎでもある</p> </div> <div style="width: 60%;"> <p>VTRを視聴する。 (アイヌの生活文化 食べ物)</p>  </div> </div> <p>VTRを視聴する。 一本しかとれなかったのではなく、とらなかつたんだ。自然を大切に！</p> <p>自分の考えをノートにまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> アイヌの人たちは、サケに必要な分しかとらないで、神に感謝し、自然のことを考え、自然を大切に、暮らしていたんだ。 </div> <p>・他のものは、どうやって手に入れていたのだろうか。</p>	<p>サケの食べ方情報や一家族が冬を越すために必要なサケの量などの具体的なイメージをもたせる。また、自分だったらどのように捕獲するのか、現在のサケ漁を想起させるとよい。</p> <p>マレクでの捕獲の様子を提示する中で、たくさんのサケが必要な一方、大量捕獲できないことに問題意識をもたせることが追求を深めることにつながる。</p> <p>子どもたちは「マレクのよさ」と「一本ずつとったわけ」について追求していく。「アイヌの人たちの暮らし」で自然界にはカムイが宿ることを学習した子どもたちに、カムイへの意識と関連して考えさせていくとより思考が深まる。</p> <p>マレクを実際に使用し、鉤の部分に着目させることで、魚を確実に引き上げる工夫へと気付きが生まれ、実感的な理解へとつながる。</p> <p>必要な量しかとらないアイヌの人たちのサケの捕獲の様子を通して、自然と共生する姿を実感的・共感的にとらえることができる。</p>

「身近な地域の地名調べから、『自然と共生するアイヌの人たち』へ」

「身近な地域の地名調べ」から、自然と共生するアイヌの人たちへ

1 実践のねらい

本単元は、他の都道府県の学習の成果を生かしながら、自分たちの暮らす北海道について、自然・歴史・産業・文化など、北海道の地理的特色を多面的に理解することを目的としている。ここでは同時に、他の都道府県や外国と比較することとし、これからの北海道の在り方を考察する学習にしたいと考えた。

実践研究を進めていくにあたり、次の二点を目指して取り組んでいく。

(1) 身近な地域としての北海道に関心をもち、広い視野からアイヌ民族の歴史・文化等を見つめる力を養うこと

(2) 北海道の地域的特色について、多面的な理解を図ること

学習のスタートにあたっては、身近な地域の地名から周辺に目を向け、地名の変遷や由来などを調べていく。北海道の開拓の歴史にかかわる地名とアイヌ語の地名を比べることで、アイヌ語の地名は住む場所の自然に関係していることを理解していくのである。それが長期的視野で、新たな視点や価値観を育て、「自然と共生する」アイヌの人たちを尊重していく見方や考え方を高めることにつながると考えた。

このような教材化を図ることにより、生徒たちは、現在の自分たちの生活はアイヌの人たちが自然と共生してきた歴史の上に成り立っていることに気付き、自らの生活の見直しを図っていくことができると考えた。

2 学習の流れ

生徒たちが身近な地名を調べてわかったことから、いくつかの規則性が見出され、身近な地名の由来には様々な成り立ちと意味があることに気付いていった。

そのことは、地域を広げても同じことであり、由来の意味付けを深め、地域の開拓の過程や自然との関係の上から地名の成立を理解することにつながった。

また、道内の地名に占めるアイヌ語由来の割合を見て、札幌市近郊においてもアイヌ語に由来するものが非常に多いことをとらえた生徒たちは、同じ北海道に生きる者として、自然とともに生きる精神が貫かれ、自然を大切にするアイヌの人たちの考え方に共感的・実感的理解を深めていった。

さらに、日常生活で使われているアイヌ語の多さと幅の広さに気付かせることで、自分たちの生活に自然と浸透しているアイヌ語やアイヌの人たちを身近に考えていくきっかけをもつことになった。映像で視覚に訴えることも有効な手段となり、生徒たちは自分の生活を見直し始めた。

地名の成り立ちと由来から、同じ北海道に生きる者としての共感的理解へ

第2編<地域の規模に応じた調査>

北海道にはどのような地域があるだろうか
身近な地名を調べると何がわかるだろうか
・身近な地域の地名からわかったこと(本時 / 6)
様々な成り立ちと意味がある
・札幌市近郊の地名の由来調べ
アイヌ語に由来するものが多い
・知っているアイヌ語の列記
施設や地名、日常生活でも使われている


第2章<都道府県地域の調査「北海道」>

農業のさかんな地域を調べよう
・自然条件と結びつけて
水産業のさかんな地域を調べよう
・国際情勢の変化と結びつけて
鉱工業と観光について調べよう
・交通機関の発達と結びつけて
開発の歴史を調べよう
・歴史的分野の導入として位置づけて

3 本時の目標

- ・身近な地域の地名の由来を調べ、特色を理解することができる。
- ・アイヌ語に由来する地名と開拓が進む中で付けられた地名に分類することを通して、地名のもつ意味を整理することができる。

4 本時の展開 (/ 6)

子どもの活動・思考の流れ	成果と課題								
<p>グループごとに作業した内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>身近な地域の地名を調べてわかったことは何だろう。</p> </div> <p>身近な地名の由来を調べた結果をグループごとに発表する。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; width: 80%; text-align: center;"> <tr> <td>札幌</td> <td>発寒</td> <td>手稲</td> <td>福井</td> </tr> <tr> <td>八軒</td> <td>二十四軒</td> <td>平和</td> <td>前田</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループの発表から、身近な地名の由来には、様々な成り立ちと意味があるんだ。 ・それぞれの地域の開拓の過程にも、きっと、同じことが言えるのではないかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>石狩支庁の市町の由来も調べてみよう</p> </div>  <p>札幌市を除く石狩支庁の市町名の由来を調べ、分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌの人たちが住んでいたから、自然を表したアイヌ語に由来するものが多い。 ・市町村180のうち アイヌ語は152も。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>知っているアイヌ語をあげてみよう</p> </div> <p>施設や地名から思い浮かべ発表する。</p> <p>カムイ・レラ・ヌプリ・コタン・ワッカ 等々</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活でも、こんなにアイヌ語を使用しているんだ。 <p>レラカムイ・シシャモ・ラッコ・ホッキ貝・オットセイ・トナカイ ハスカップ・ルイベ・ノンノ <VTR視聴> なっちゃんレラ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活の中で、多くのアイヌ語が使われている。 ・他にはどんなアイヌ語が使われているのだろう。 </div>	札幌	発寒	手稲	福井	八軒	二十四軒	平和	前田	<p>身近な地域の地名の成り立ちと由来について、グループごとに作業し発表させることは、意欲を喚起し、追求の視点を明確にする上で、非常に有効である。</p> <p>地名の成り立ちと由来については、規則性を発見しながら5つに分類することで、様々な成り立ちと意味に気付くことができる。アイヌ語の地名に由来することだけではなく、自然と結び付けることが自然と共生してきたアイヌの人たちの生活にもっと結びつくものとなる。</p> <p>アイヌ語に由来 移住者の出身地に由来 開拓の様子に由来 開拓民の願いに由来 開拓民の名前に由来</p> <p>北海道地名小辞典をグループごとに補助資料として渡し追求することは有効である。アイヌ語の地名が和人により名前を変えさせられた事実を提示することは、様々な視点から北海道の歴史や自分たちの生活について考えることにつながり、学習がより身近になり深まる。</p> <p>180市町村に占めるアイヌ語地名の割合を示すことや日常生活の中で使われているアイヌ語を提示したり映像で見せたりすることは実感を伴い高い効果がある。</p>
札幌	発寒	手稲	福井						
八軒	二十四軒	平和	前田						

研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 目的を明確にした価値ある具体的な活動や体験が、共感的・実感的理解へ

価値ある体験的活動が、子どもの心をゆさぶり、共感的・実感的な理解へ

- ・具体的な活動や体験、視聴覚教材等を積極的に活用したことは、子どもの興味・関心を高め、共感的・実感的な理解を図るために非常に有効であった。子どもの生活経験を中心にすえ、素材のもつよさをよく吟味し、調べることと考えることを明確にすることを通して、自然を利用するアイヌの人たちの姿や将来の生活のことまで考えるアイヌの人たちの知恵に気付くことができた。
- ・中学校1年社会の地理教材においても、「市町名の由来のグループ分け」といった活動や辞典資料から追求する活動が有効であった。また、生徒たちにとっての身近な施設や地名の映像による提示により、言語・地形・歴史などと生活が結びつき、共感的・実感的な深い理解につながった。

(2) 「自然との共生」の大切さの実感が、自己の生活の見つめ直しへ

アイヌの自然観にふれることを通して、自己の生活の見直しの目を育てて

- ・アイヌの人たちの暮らしや文化（衣食住・遊び）のどれもが、自然の恵みに感謝し、自然の物を大切に使い、自然とともに生活する精神に満ちていることに気付くことができた。
- ・アイヌの人たちの自然と共生する生き方に納得し、自分の見方や考え方を問い直すきっかけを得ることができた。「自然を利用するアイヌ」から「自然を大切にするアイヌ」へ、さらに、「自然と共生するアイヌ」へと見方・考え方を高め、環境に関する自分の生活の見つめ直しの目をもつことができた。
- ・札幌市ウタリ教育相談員の方を活用しながら、実感の伴った具体的な活動を進めることができた。ゲストティーチャーの言葉を直接聞くことにより、考えたことを検証でき、自然に対するアイヌの人たちの思いや考え方により迫ることができた。また、自分も自然を大切にしていかなければならないという見方や考え方を高めることができた。

2 今後の課題

(1) 「自然との共生」を図るアイヌの人たちの考え方や生き方を、発達に応じて無理なく学ぶことができるようにすることが大切である。4年生の学習を6年生へどうつなげ、中学校の地理へどう継続・発展させていくか、また、地理と歴史の分野においてもどう関連させていくか、十分配慮し実践していく必要がある。

教育課程への位置付けを明確に、小・中の関連を十分に図った学習活動を

(2) 子ども一人一人をかけがえのない人間として尊重し、民族的な差別や偏見がないように十分に配慮することが必要である。人間尊重の視点から、アイヌ民族の学習と各領域の内容との関連を図っていくことが重要である。

アイヌ民族の学習をする上でセンター校的役割を担い、活用でき得る支援体制を

(3) 札幌市ウタリ教育相談員の松平さんをゲストティーチャーとして招き、共感的・実感的理解を図る学習に取り組んだ。今後も、日常的な交流も含め、より効果的なゲストティーチャーの活用を工夫していく必要がある。

(4) 今回使用した活動に必要な具体物、及び資料や指導案などを一か所に集約し、「どこの学校でも」活用できるような体制づくりを進めることが重要である。

【参考文献・視聴覚資料・施設等】

- ・「アイヌ民族の歴史・文化等に関する指導資料第4集」 札幌市教育委員会
- ・「江戸時代 人づくり風土記 1 北海道」 農文協
- ・札幌市ウタリ教育相談員 松平 智子（南区小金湯27 電話：011-596-3690）
- ・アイヌ文化振興・研究推進機構（北1西7プレスト1・7 電話：011-271-4171）